



## 次世代という企業の転換

令和6年10月25日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

時代はその変化を有し、新しい企業製品とサービスの転換は、新しい現実への参加の絶対基盤である。

これらは企業製品の飛躍は、企業それ自体の飛躍を実現できることを意味するものである。これらは既存企業のソフト資産を明確に再構築し、新たな現実を牽引することを提案したい。

これらは視点と基準を完全に転換し、その独創性を学術性と技術基盤を新たに、実現できるのである。

これらは技術屋が、自己の理想を得るという言葉がわかりやすい。しかしこれらは次世代という新しい現実と基準を要求するのである。

これらは明確に企業計画において、これらの明記を要求されるものである。企業の将来像は、計画に与えられた自己の姿なのである。

これらは既存現実が完全に滅ぶことが未来において予測されるのである。新しい技術とシステムにおける現実は全ての企業が参加する市場原理とともに、新しい未来を完全に約束するためである。

また競争原理という市場原理は、その優位性をより優れた現実において渴望し行うのである。

これら今日の現実の完全な転換は、コンピュータという現実に基盤するネクストソサエティへの転換であるという認識は正しいのである。

これら現実において、企業は時代先端基準において企業の再構築を行うことは必要とされるものである。これらが、はかり知れない高い効率性と生産性を、IT システムにおける自動化や自動生産システムにおいて有するためである。





これらが企業の新たな企業システムへの移行と転換であり、これら企業運営と経営基準における新しい企業製品基盤とともにしたグローバル市場への参加が、世界のメジャーとの対応な市場参加を与えることができるのである。

これらシステムとすべての無駄の削除は、シンプル化における経営の効率化と新しい技術システム基準における企業製品の構築において、グローバル基準という企業への要求をクリアし、新しい現実とともにしたその企業構築と参加を実現できるのである。

これらは完全に既存現実との決別であり、新しい企業経営基準とコンセンサスにおける企業の転換である。

これらの完成は、新しい現実において標準化される企業経営システムの構築であり、MBAシステムとともにした新しい経営体制への転換である。

今日の変化は、手工業から自動化された生産と作業への転換であり、19世紀の産業革命が今日その完全な転換を新たに有するのである。

またこれら現実への理解を求めるとき、これらは全てコンピュータエイジへの転換なのである。

これら新しい現実には既存価値観の完全な崩壊を与えているのである。またすべての産業においてこれら新規基準における企業構築が存在するため、これらより優れた企業環境を否定することは不可能なのである。

またこれらが新しい利益基準を有することは理解されなくてはならない。それが今日新しい富裕層を与えていることは真実なのである。

企業においてこれらは未来という選択である。他方においては過去に住することはもはや不可能なのである。

企業が自立と独立においてこれらを行うことは、明らかに正しい選択である。自由経済システムと自由貿易システムの下、企業は自己の独立性を行うことは可能なのである。

これらは企業において無限の可能性であることを提示したい。そのため、企業努力という企業の転換は、これら新しい基準における企業経営への転換であり、それが未来という新しい可能性を自己に与えることができるのである。

